

# 2011年度文部科学省予算に対する要求署名

文部科学大臣 様

新政権になり公立高校授業料無償化、私立高校等への就学支援金など、教育費無償化に向けての一步を踏み出しました。また7年ぶりに教職員の定数増となりました。

少人数学級が、すべての都道府県で実施されるようになり、各自治体の努力で制度の改善・充実もすすんでいます。いまや30人学級、教職員増は多くの父母・教職員の要求であり、国の責任による30人学級の実施は急務です。全国一斉学力テストは、抽出での実施になったものの、自治体ごとの希望利用をとっており、子どもと学校を競争に追いやることになりありません。いっそうの矛盾を激化している全国一斉学力テスト、教員免許更新制は廃止すべきです。また2008年度の統計をみても病気休業者のうち精神疾患による休職者は増え、長時間過密労働は教職員の心身をむしばみ、子どもと向き合う時間が奪われています。また教職員賃金も削減され続けています。

これらの課題を改善するために、2011年度政府予算にむけた文部科学省概算要求について、以下のことを要請します。

1. ゆきとどいた教育をすすめるために国の責任で30人学級を実施すること。  
また、あらたな教職員定数改善計画を策定すること
2. 教育費無償化を前進させるために以下の措置を講じること
  - ① 授業料以外の学校納付金(給食費・教材費など)を無償にすること
  - ② 高校生・大学生に対する給付制奨学金を創設すること
  - ③ 義務教育における準要保護児童生徒の就学援助の国庫負担金を復活させること。高校就学援助制度を創設すること
  - ④ 大学における教育費を漸進的に無償にすること。当面、国立大学の授業料を引き下げ、私立大学における授業料の減免への支援策を拡充すること
  - ⑤ 私立高校の実質無償化を実現すること
3. 全国一斉学力テスト、教員免許更新制のための予算は計上しないこと
4. 子どもたちと直接向き合う教職員を増やし、教職員の慢性的な超過勤務を解消すること
5. 教職員の勤務実態にふさわしい賃金水準を確保すること

氏 名	住 所

※この署名は、文科省に提出する以外に使用しません。